

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
国際情報工科自動車大 学校	平成13年12月11日	双石 茂	〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-15 (電話) 024-956-0030																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月22日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	ドローンスペシャリスト科		令和元年度文部科学省認 定	-																						
学科の目的	空撮をはじめ測量、防災、インフラ点検など各産業での活躍が注目されているドローンを基礎から学び操縦技術はもちろん法令や飛行申請にも 対応できる人材の育成を行う																										
認定年月日	令和4年3月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1785	612	204	969	0	0																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
10		11人	0	1人	3人	4人																					
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価 ■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 年2回試験を実施。試験の点数、実習成果、授業課題から点 数配分を行い点数に応じたA～Dの4段階評価 A評価：100～80点、B評価：79～70点 C評価：69～60点、D評価：59～0点																							
長期休み	■新緑休業：4月29日～5月7日 ■夏季休業：7月25日～8月31日 ■冬季休業：12月25日～1月7日 ■春季休業：2月11日～4月10日			卒業・進級 条件 卒業・進級するためには以下の3つの要件をすべて満たして いる必要がある ■総出席率90%以上 ■科目評価すべての科目C以上 ■進級基準基準検定の取得・課題・作品の提出																							
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 ・定期面談の実施 ・必要に応じた三者面談の実施 ・出席管理			課外活動 ■課外活動の種類 ・ボランティア活動 (各種ボランティア活動実施) ・学園祭実行委員会 (学園祭の告知、PR) ・卒業パーティー実行委員会 (卒業パーティーの企画運営) ■サークル活動：有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等 (令和3年度卒業生) 株式会社アセンド、テラドローン株式会社 ■就職指導内容 就職研修開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別 面接指導など ■卒業者数 6 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.3% ■その他 ・未就職者1名 (令和 3 年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定 等) ※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第4級アマチュア 無線技士</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>第3級陸上特殊無</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③ のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得 するもの ③その他 (民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生、卒業生が、コンテスト、コンテスト等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	第4級アマチュア 無線技士	③	6人	6人	第3級陸上特殊無	③	6人	6人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
第4級アマチュア 無線技士	③	6人	6人																								
第3級陸上特殊無	③	6人	6人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 令和3年4月1日時点において、在学者13名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者13名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度の採用、学生と定期的な個別面談の実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の 進路確認面談など			■中退率 0 %																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： (有) 無 【各種特待生制度】受験する際に書類審査・面接試験結果、ランク判定により5万～25万円の授業料免除 【進級時特待生制度】2年生に進級する際、一定の条件を満たした者に対して5万円又は10万円の授業料免除 ■専門実践教育訓練給付： 給付対象 (非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： (有) 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://wiz.ac.jp/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関業界団体、学術有識者や業界企業などで編成する「教育編成委員会」を設置。業界の専門性に関する動向や産業振興の方向性など、今後必要となる知識、技術、技能など十分に把握、分析を行い実践的職業教育に必要となる授業科目の開設や授業内容の改善と提案を行い、企業の要請をいかしつつ教育の質の確保と向上に努める。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会は現状の教育課程内容を認識し、関係する業界動向を業界動向、最新の知識、機材、手法等と併せて改善が必要とされる課題を抽出し、各学科で新教育課程案を作成する。新教育課程案を学校管理者が総合的に検討、学校長の許可を経て決定する。新教育課程は次年度以降の教育課程に反映させる。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿
令和4年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
小林 康宏	一般社団法人 日本水中ドローン協会	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	①
熊谷 昭一	合同会社RCラボ	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	③
鹿又 将征	株式会社アルサ	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	③
双石 茂	国際情報工科自動車大学校 学校長	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	
阿部 一則	国際情報工科自動車大学校 副校長	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	
鈴木 友二	国際情報工科自動車大学校 教務部長	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	
近内 広樹	国際情報工科自動車大学校 工学分野 学科長	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	
佐藤 慶多	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和4年1月1日～ 令和5年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。）

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回（7月、2月）
(開催日時（実績）)
第1回 令和3年7月28日 16:30～17:30
第2回 令和4年2月10日 16:30～17:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
・委員会から基本構造を理解していないと良い技術者にはなれないとの意見を頂き実習（科目名：デジタル応用技術実習）において、ドローンの分解・組み立て、プログラムのインストールを実施した。また、今後普及することが考えられる水中ドローンの特別実習について提案を頂き実施に向けて検討中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

卒業後は即戦力となる人材を育成するため、カリキュラムの見直し、特別実習を実施し幅広くドローンを活用できる知識・技術を身につけると共にドローン操縦以外の資格についても取得を目指す方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

学生個々の課題、目標を明確にし、企業現場特有による到達度、計画を、一言こどもに分かりし、ハイブリッドを図る。

また、開校授業に顧客目線・企業目線からの視点を加える事により、より実践に近い授業展開を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デジタル応用技術 実習	ドローンで取得した各種映像データ処理と分析 ドローン製作実習	合同会社RCラボ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

基本は企業現場からの教員採用を前提としているが、学校内部で教員年数を重ねていくにつれて、ややもすれば過去の知識・経験のまま陳腐化した教育を施す危険性もある。このため、就業規則第57条等による教育・研修体制、特に外部研修を充実させ、日々の研鑽とスキルアップを図る方針とする。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「CHASING M2 オンラインセミナー」（連携企業等：株式会社スペースワン）

期間：令和3年9月24日（金）対象：ドローンスペシャリスト科教員

内容：産業用水中ドローンの性能、使用方法、オプションについての説明と運用について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「スクールカウンセラーから学ぶ 最近の若者の傾向と教員としての対応方法」（講師：久保木優紀）

期間：令和3年8月5日（木）対象：ドローンスペシャリスト科教員

内容：最近の若者の傾向とカウンセリングを受診している学生の指導・対応方法

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「国家操縦ライセンス制度の概要」講師 航空局 安全部 無人航空機安全課 課長 梅澤 大輔

期間：令和4年5月12日（木）対象：ドローンスペシャリスト科教員

内容：令和4年12月開始予定の無人航空機操縦士ライセンスについて解説

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学びを辞めさせない」本質的な教育力の向上（講師：株式会社学び 代表取締役社長 寺裏誠司様）

期間：令和4年4月5日（火）対象：教員

内容：退学の要因と退学抑止の全体構造、退学抑止の具体的な対応策、教員としてのマインド

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会（加盟校：26法人113校）により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容、管理運営、改革改善
(3) 教育活動	教育の内容、管理運営、改革改善
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営（法人）
(9) 法令等の遵守	管理運営（法人）
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和3年度委員会、自己点検評価に基づき不備な点の改善、方向性の決定、優良な点の継続、及び次年度以降の解決・取組課題について協議実施。評価委員からの意見として「社会的活動」に関してSDGsに取り組むにあたり、福島県から温暖化に関するロードマップが発表されるため参考にしてはどうかとの意見があり、ロードマップを参考にしながら各学科にSDGsに関する取り組みを導入する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
小野 隆	一般社団法人 福島県自動車整備振興会	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	公共団体委員
嶋影 健一	公益社団法人 日本建築家協会 東北支部	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界団体委員
中林 寿文	特定非営利活動法人 国際ゲーム開発者協会	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界団体委員
嶋原 健太郎	光栄電気通信工業株式会社	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
鹿又 将征	株式会社アルサ	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
山ノ井 靖	有限会社 山ノ井商事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 理夫	福島大学 共生システム理工学類	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	教授

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 () ()

URL:<http://wiz.ac.jp/shokujitsu/>

公開時期：令和4年度12月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・コンペ・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 各学科等の教育	教育の内容、管理運営、改革改善
(3) 教職員	教育の内容、管理運営、改革改善
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育目標の達成度と教育効果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育の実施体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生支援
(8) 学校の財務	管理運営（法人）
(9) 学校評価	管理運営（法人）
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 () ()

URL:<http://wiz.ac.jp/shokujitsu/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 ドローンスペシャリスト学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ドローン概論	ドローンの歴史、種類、飛行原理、要素技術、操作技術、法律規制 などの基礎知識を学ぶ	1通	102		○			○			○	
2	○		撮影技術概論	静止画・動画ともにカメラのメカニズムと取り扱い方法、カメラワークを学ぶ	1通	102		○			○			○	
3	○		情報技術基礎	OA (Excel Word PowerPoint) を学ぶ	1通	102		○			○		○		
4	○		ドローン応用技術1	無線工学・土木・測量・電気・農薬などドローン活用に必要な概論を学ぶ。	1通	102		○			○		○		
5	○		プログラミング基礎	教育用ツール等を利用した初級レベルのプログラミングの基礎を学ぶ	1通	102				○	○		○		
6	○		撮影編集実習	デジタルカメラでのスチール・ムービーの撮影技術と、Adobeアプリを使ったレタッチや合成などの編集技術を習得する	1通	153				○	○			○	
7	○		ドローン操縦実習1	ドローンを安全に運航できる操縦訓練をする。主にフィールドワークで空撮に取り組む	1通	204				○	○		○		
8	○		ドローン技術概論	マルチコプター要素技術 制御システム バッテリー センサー類 無線通信 気象	2通	102		○			○		○		
9	○		映像企画演出	映像のプランニングとディレクションを学ぶ	2通	102			○		○		○		
10	○		情報システム	CAD等パソコンでの利用方法を学ぶ	2通	102		○			○		○		

11	○		ドローン応用技術2	主に測量や農薬散布、設備点検など産業用ドローン活用に必要な概論を学ぶ。	2通	102				○		○		○			
12	○		ドローンプログラミング	ラズベリーパイ等を使用しプログラミングを組み込みLED制御やモーター制御等を学ぶ	2通	102					○	○		○			
13	○		ドローン操縦実習2	測量・農薬散布・設備点検などの実践的なドローンの操縦、インフラ等の点検実習	2通	204					○		○		○		
14	○		デジタル応用技術実習	ドローンで取得した各種映像データ処理と分析。ドローン製作実習	2通	204					○	○			○	○	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
合計					14科目	1785単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・総出席率90% ・科目評価すべての科目C評価以上 		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。